

美術館では、昨年に引き続きクリスマスにハンドベルのミニコンサートを行います。演奏するハンドベル隊なるものを9月に結成。もちろん全員スタッフです。「ハンドベル」の演奏は、1曲の中に登場する全ての音の数だけベルが必要です。そのため、曲によってベルの数が変わり、ひとりが複数個のベルを受け持ち演奏します。音により大きさが違うので、大きささまざまなベルを持ち替えながら演奏することになりますが、その様子は、珍しく、迫力を感じていただけたと思います。隊員たちは、今年にもっと間近で楽器を見てもらおうと考えている様子。「天使のハーモニー」と称される音色を、どうぞご期待ください。

そして、11月1日には愛知県の愛・地球博記念公園内に「ジブリパーク」の第1期、「ジブリの大倉庫」「青春の丘」「どんどこ森」がオープンいたしました(チケットは予約制)。2Fギャラリーでは「ジブリパーク」を紹介するミニ展示を行っています。美術館とともに、ジブリパークも身近に感じ、楽しんでいただけたらと思います。



季刊トライホークス 2022年 | 69号
発行日……2022年12月3日 | 発行人……中島清文
発行所……徳間記念アニメーション文化財団
東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館
編集……石光紀子 塚原瑞穂 | デザイン……川島弘世
印刷……図書印刷株式会社 | 非売品

本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。
トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にしていただけたら嬉しいです。

絵物語 古事記

日本に現存する最古の歴史書『古事記』。全3巻に分かれており、上巻には国の成り立ちを語る神話が、中巻と下巻には代々の天皇の時代の出来事が綴られています。この『絵物語 古事記』は、上巻におさめられた神話の部分が、昔話を語るような文体と全ページに描かれた挿絵によって、絵巻物のように読み進めることができるようになっています。

『古事記』に登場する神々は、完全無欠な存在ではなく、感情豊かで個性的です。母を恋しがって山や海を枯らすほどの涙を流したり、子どものような兄弟喧嘩をしたり、するいことや意地悪もします。空や海や山や動植物、あらゆる神々がいて、中にはとても小さな神様や、鼻や口やお尻からおいしい食べ物を生み出す神様までいるのです。

魅力的な動物たちも登場し、神々の物語に彩りを添えています。稲羽の白うさは鮫を騙して返り討ちに遭う、お調子者でかわいそうなうさぎ。結婚の試練に立ち向かうオオナムチを助けるねずみは、大事な矢をせっせと持ってきてくれる姿が健気です。

山村浩二さんの挿絵は、柔らかに揺らいだ線で描かれています。神々も動物も自然も、それぞれの存在の境目が曖昧に感じられるような表現は、この世の全てに神が宿る『古事記』の世界に寄り添っており、読み手の想像力がより一層掻き立てられます。

『古事記』を編んだ古代の人々の思いを想像することは、なかなか難しいことかもしれませんが。しかし『絵物語 古事記』を読んでいると、遠い時代の人々が感じていたものの一端を共有できるような気がしてきます。めくるめく絵物語で描き出される神々や動物たちが、私たちを『古事記』の世界へと誘ってくれるのです。



絵物語 古事記

文……富安陽子
絵……山村浩二
監修……三浦佑之
偕成社 1,760円



八百板洋子

Yoko Yaoita

私をはげましてくれた本

図書室でも人気の『吸血鬼の花よめ』。八百板洋子さんはこの本の翻訳者であり、東欧を中心に数多くの作品を訳されています。子どもの本、大人の本、周りにたくさんある本を、おもちゃ箱をひっくり返すように手に取り、読まれてきたそうです。その中から、いつも八百板さんの傍らにあり、大切にされてきた本を紹介していただきました。

* * * * *

初めて出会った本は——、
あれは、どこの国の絵本だったのだろう。
うすい表紙には、赤いマフラーをした雪だるまが
いました。

その本は、父がスウェーデンで開催された「世界平和評議会」に出席したときにデンマークにも行き、アンデルセンの絵本といっしょに見つけてきてくれたものです。どれも読めない字の本でしたが、私なりにお話をつくって遊んでいました。『マッチ売りの少女』や『人魚姫』もあり、あとで日本語の絵本も母に買ってもらったので、何遍も読みました。『人魚姫』の、愛する人のために身を犠牲にする姿に悲しいものを感じ、アンデルセンにも思いを馳せました。

わたしの生まれ育ったのは、東北の山あいの小さな町で、阿武隈川をせきとめたダムがありました。裏庭からは、夏でもうっすら雪の残る吾妻・安達太良連峰が見えました。あの『智恵子抄』の「樹下の二人」の冒頭の一節の山が。

あれが阿多多羅山、
あの光るのが阿武隈川。

(『智恵子抄』「樹下の二人」より)

安達太良山は、遠くで見ると青くて美しくて、空の青さと競っているようですが、炎天下、荷物を背負って登るのは、きびしい山でした。でも、

夜、テントを出て空をあおぐと、空いっぱい星がありました。満点の星が降り注いでくる感覚。樹木の香と澄んだ空気につつまれる一体感。

「樹下の二人」もこの空が好きだったのだろうと思いました。『智恵子抄』は、廊下の本棚に草野心平や宮沢賢治の詩集と並んでありました。

智恵子への憧れもあったのか、高校は智恵子の母校（県立福島女子高）に入りました。学区外からの汽車通学なので、図書室から本を借りて往復の車内で読みました。『若草物語』『赤毛のアン』『宝島』『アンナ・カレーニナ』などです。うれしかったのは、『ファーブル昆虫記』です。3人の弟たちと一緒に夢中で読みました。

子どもの頃、わたしは昆虫図鑑を見るのが好きでした。夏、家にとび込んできたトンボをつかまえて、図鑑を見て弟たちと言いあったものです。たまに羽の透けた黒や青の細いトンボもいて、神さまトンボと呼んでいました。小さい山をひとつ越えた不動滝のあたりにいるのですが、途中に広い田んぼがあり、畦道にいろんなものがいて一人では行けません。弟や友だちを誘って棒を振りまわしながら歩いたものです。

滝のそばに石段があり、こけの生えた石の上を登って遊ぶのはスリル満点。上には古びた社があり、不動明王をまつっています。ある日、石段に座っていたら、暗い木がざわざわ揺れ、ぞぞっ

と寒気がしました。何かが出てきそうな生々しい感じで、みんなが大蛇だということで、こわくなり走って帰りました。あの何か異界にひき込まれるような感覚は、あれは何だったのだろうと今でも時々思い出すことがあります。目に見えない何かを思うのは、どの国の子どもも大人も同じものがあると思います。

20代の頃にブルガリアの詩を研究するためソフィア大学に留学しました。そしてスラヴの国の吸血鬼などの民間伝承にもひかれ採録してきました。翻訳の『吸血鬼の花よめ』は民話集ですが、資料をもとにいくつかのこわい話も書いています。「怪談レストラン全50巻」(童心社)、「怪談図書館全15巻」(国土社)、「妖怪ホテル全10巻」(ポプラ社)などのシリーズによせた多くの作品は、東欧の国々の民間伝承・伝説をもとにしています。

留学するときには、草野心平の『第百階級』(注1)と宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を持って、横浜港をバイカル号で発ちました。『銀河鉄道の夜』は空に駆ける列車の姿に、鎮魂の思いと共に故郷の空や野山に思いを馳せました。

『第百階級』はすべて蛙を題材にした詩集です。「秋の夜の会話」は、虫の声も消えた秋の夜、蛙たちが土の中にもぐりこむときの会話で、長い冬の寒さと飢えが、異国に独りでいた自分と重なるようでした。「ぐりまの死」は、カンカン照りの熱い砂地の上で、死んで干からびていく「ぐりま」と、すみれを摘んで「ぐりま」に捧げるせつない「るりだ」

が目に浮かぶようでした。愛する者への惜別が。

帰国後、研究していた19世紀の詩人、バイヨ・K・ヤーヴォロフの詩の翻訳を手がけました。原詩の響きを生かして、凝縮された詩の言葉を紡ぎだすのは難しく何度も壁につき当り悶々とした日々でした。ためらいながらも、2、3の詩稿を草野心平さんに送ってみたところ、思いがけず、他の訳詩も見たいとお手紙をいただきました。教えを受けに東村山のご自宅に何うと、階段わきに高村智恵子作の紙絵が飾ってありました。

あのと、訳詩集にもかかわらず、ヤーヴォロフ詩集『ふたつの情念』(新読書社)に「序」をよせてくださった草野心平さんの気持ちを思いおこすと、今でも熱いものがこみあげてきます。

*注1……1928年に出版された草野心平の詩集。銅鑼社刊。

やおいたようこ

1946年、福島県生まれ。ソフィア大学大学院に留学。『ふたつの情念—ヤーヴォロフ詩集』(新読書社)、『吸血鬼の花よめ—ブルガリアの昔話』(福音館書店)でそれぞれ日本翻訳文化賞を受賞。『ソフィアの白いばら』(福音館書店)で産経児童出版文化賞、日本エッセイストクラブ賞を受賞。『猫魔ヶ岳の妖怪』(福音館書店)で産経児童出版文化賞美術賞、『金の鳥』(BL出版)で日本絵本賞を受賞。著書は『いのちの水』(福音館書店)、『にんぎょひめ』(学研)など多数。2011年、ブルガリア共和国文化省より文化功労賞をうける。

トライ
ホークス
の本

吸血鬼の花よめ
ブルガリアの昔話
編・訳…八百板洋子
福音館文庫 660円



人魚姫
アンデルセンの
童話 2*
作…アンデルセン
編・訳…大塚勇三
福音館文庫
935円



智恵子抄
著者…高村光太郎
新潮文庫
473円



宮沢賢治全集 7*
著者…宮沢賢治
ちくま文庫
1,100円



草野心平
日本語を味わう
名詩入門12*
編…荻原昌好
あすなろ書房
1,650円

◆若草物語

著者…ルイザ・オールコット 訳…松本恵子
新潮文庫 781円

◆赤毛のアン*

著者…ルーシー・モード・モンゴメリ
訳…村岡花子 新潮文庫 825円

◆宝島*

著者…R・L・スティーブンソン 訳…坂井晴彦
福音館文庫 935円

◆ファーブル昆虫記 第1巻上下*

著者…ジャン=アンリ・ファーブル 訳…奥本大三郎
集英社 上3,960円・下3,740円 ◆全10巻

◆うちのねこちゃん

文…松谷みよ子 絵…小沢良吉 偕成社 880円

◆ウクライナ民話 てぶくろ

絵…エウゲーニー・ムラチョフ 訳…内田莉莎子
福音館書店 1,100円

*印は、八百板さんが選んだタイトルをもとに、現在入手できる本を編集が選びました。



山脇百合子さんのこと

今年の9月29日、絵本作家で挿絵画家の山脇百合子さんがお亡くなりになりました。

お姉さんの中川李枝子さんと共に制作した『いはいやえん』や「ぐりとぐら」シリーズをはじめとするたくさんの作品は、誰もが一度は手に取り親しんだ本であり、今後も読み継がれていく本だと思います。美術館とも縁が深く、館内で上映しているオリジナル短編アニメーションの第1作「くじらとり」は『いはいやえん』に入っているお話が原作です。第9作目の「たからさがし」は絵本がもととなった映画です。他にも、美術館パンフレットに絵を描いていただいたり、山脇さんご自身が手作りして下さった“絵箱”「ジブリの森のスタジオ」があります。どちらも愛らしくて、とっても素敵なものなので、“ちょっと自慢したい一品”です。

絵箱のこと

今から20年以上前、山脇さんに「今はまっけて、夢中で作ったものなのよ」と、お手製の絵箱を見せていただきました。（『絵本作家のアトリエI』福音館書店刊行p121に載っています！）美術館が建設されることは決まっていたのですが、具体的なことはまだ何も決まっていなかった、そんな時期のことでした。複数枚の絵を間隔を開けて並べることで、奥行きを持たせた小さな箱。手のひらに載せのぞきこむと、山脇さんの描いた世界が広がっていました。ぐりとぐらのえんそく、みんなでお花見、お菓子づくり……。月並みな言葉ですが「かわいい!」としか言えないほど、感嘆の声をあげ誰もが魅入ってしまう小さな小さな箱でした。

ジブリの森のスタジオ

それらの絵箱を見た宮崎駿監督が山脇さんに、アニメーションができるまでをモチーフにした絵箱を作ってほしいとお願いしたのです。美術館に飾るので10個ぐらいは欲しいとお願いしていたような気がします……。山脇さんは「アニメーションの作り方なんて知らないから困ったわ」と話されていましたが、監督から、みんなでお茶を飲んだ

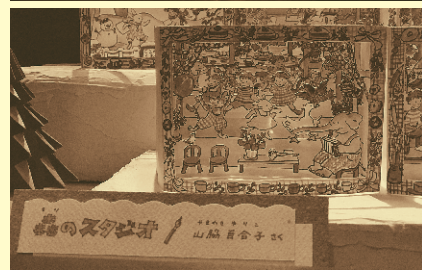
り、話をしている場面でもいいと言われ、それならばと制作を引き受けてくださったそうです。撮影や仕上げ(彩色)など、映画の制作資料もお渡しして、完成したのが「ジブリの森のスタジオ」。「森のスタジオ入口」「会議室」「背景を描く」「仕上げと作画室」など、最後は「完成パーティー」でしめくられる9つの絵箱です。映画の制作手順を追いつつも、森で楽しげにスケッチをする箱もあり、山脇さんのお人柄が表れています。

「絵の縁ぎりぎりを切るのがなかなか大変なのよ。」と話されていましたが、木や花、人や動物の細かいところまで丁寧に描かれ、カットされています。絵箱の縁にもご注目ください。額縁にあたる部分には、たんぽぽ、すみれ、クローバー、えんぴつに絵筆、ドーナツやクッキー、ケーキが描きこまれ、絵箱を愛らしく彩っています。

絵箱は図書室のウィンドウに年に数回飾っています。絵箱を飾ると、子どもたちはガラスに顔を近づけてじっとのぞきこみ、お母さんからは「売り物ですか?」「どこかで手に入りますか?」とよく聞かれます。小さな9つの箱は専用の白い台に載せて飾っていますので、ひとつひとつ、すみずみまでご覧ください。また、美術館図録には全ての絵箱の写真を掲載していますので、こちらもぜひご覧いただければと思います。

山脇さんは「絵には自分の思いが出てしまうから、絵を描くときは楽しい気分でないといけなのよ」と常々お話されていたそうです。山脇さんの絵は、私たちを楽しく、優しい気持ちにさせてくれます。山脇さんが手がけられたたくさんの本とともに、美術館のために作っていただいた絵箱をこれからも大事にしていきたいと思います。

最後に、たくさんの作品をありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。



図書閲覧室
トライホークス
入口のウィンドウ
絵箱
「ジブリの森の
スタジオ」